



五泉市東蒲原郡医師会より

五泉市東蒲原郡医師会

理事 廣瀬 慎太郎



現在の五泉市東蒲原郡医師会の現況について報告致します。

令和7年4月現在、五泉市内に19診療所と2病院、阿賀町に4診療所（公設3）と1病院が存在し、A会員24名・B会員26名で構成されています。医療圏対象人口としては、近隣市町村と重なる部分はあるものの五泉市民約45,300人（高齢化率37.9% 県内16位）・阿賀町民9,000人弱（同52.3% 県内1位）と超高齢化地域に相当し、加えて人口減少が進みつつある地域です。最近の主な会員の異動としては、昨年度末をもって2施設3名の医師が引退、今年度早々に1施設2名が新規開業されました。今現在五泉市内A会員のうち診療所開設者は21名、平均年齢63.8歳、高齢化率40.9%と、こちらも診療所の減少と医師の高齢化が進んでいます。

会員の業務としては、日常診療はもちろんのこと、乳幼児健診・地区内の保育園／幼稚園～高校などの校園医・当医師会運営の夜間診療所業務・土日祝祭日の当番医業務・介護認定審査会への参加・各種委員会（主に地域医療・介護・教育に係るものが主体）への参加・警察医業務（五泉市内、主にA会員で持ち回り）などを主な活動としています。中でも、警察医輪番制度は特徴的な制度であろうと感じています（輪番制を導入しているのは県内3医師会だそうですね）。警察医の業務のあらし・なり手不足の現況などについては、新潟県医師会報第899号座談会（P30～）に記載がありますのでご参照ください。当医師会においては、以前お一人が警察医を担当されていましたが、ご引退に伴い持ち回り輪番制度に移行し

ました。少人数構成の医師会としては、なり手不足解消の点から良手であったと思われます。約20名による輪番ですから、凡そ1年半に1回程度の頻度になります。最近は刑事課の方が気を利かせて頂いているようで、深夜・早朝の呼び出しはなくなりました。ある程度こちらの都合が付く時間で対応可能にしてもらっています。五泉警察管内で発生する検視案件（昨年は約60件・月4～5件程度）に対応しますが、原則的にはまずかかりつけ医に連絡が行き、対応できない際に当番医に連絡が入ります。時に髄液穿刺やペースメーカなどの医療器具摘出などの処置を求められる事もしばしばです。検案書については、鑑識課職員からの情報を参考にして作成致します。中にはAi（オートプシー・イメージング）適応のケースが存在する可能性があります。それに対応する病院とのすり合わせが行われていないことや検案書作成までのタイムラグ発生の問題が生じる事などから、現在まで対応案件に遭遇したことはありません。正確な死因検索や検案書作成については、時に必要な手段であることは広く周知されつつあり、今後の課題と思われます。

特徴的な業務について紹介致しましたが、いずれの業務についても少ない会員でやりくりしている現状です。津川病院・五泉中央病院に研修や出張で来られている若手医師、あるいは地元出身の若手医師の皆さんが少しでも五泉市・阿賀町に興味や親近感を持ち、我々の仲間に加わってほしいものかと淡い期待を抱いている今日この頃です。